

ニューノーマルにおける SALC プロモーションと学生の利用状況

Promoting SALC Usage in the Pandemic Context

宝来華代子，崇城大学

Kayoko Horai, Sojo University

khori@m.soyo-u.ac.jp

著者について

宝来華代子：崇城大学総合教育センター Sojo International Learning Center 教員及び自律学修支援センターの主任ラーニングアドバイザー。熊本大学大学院社会文化学研究科博士課程修了。博士（文学）。専門は自律学修，自己管理学習，自律学修センター，学修アドバイジング。

要旨

日本の大学での英語教育で、Self-Access Learning Center (SALC) は普及し、学修支援の関心は高まっている。SALC がより効果的に利用されるために、学習者が SALC リソースの利用方法を理解することは重要である。学生は、オリエンテーションや様々なデジタル媒体での PR を通してこれらを認知することが多いだろう。昨今はデジタル媒体による PR 活動が中心となり、利便性や効率において非常に有効である。2020 年からのパンデミックの状況下で大学教育の在り方は一変し、SALC でもサポート体制の再構築が余儀なくされ、学生が安心して「ニューノーマル」の環境で学習に取り組めるように検討した。本稿では、当該 SALC の課題について報告し、2020 年前期から 2021 年後期にかけて行った学期ごとの対応や具体的な初期オリエンテーションや PR 活動の改変について述べる。さらに (1) SALC リソースに関する学生の利用方法の認知度調査 (2) SALC 利用状況に関する統計データを参照し、取り組みを振り返る。当該 SALC では、対面での PR を導入することで SALC 利用者数は改善した。SALC の効果的な利用支援のために、オリエンテーションの情報を分割し、対面での PR 活動を導入することは、有効であるだろうと考えられる。

キーワード：セルフ・アクセス・ラーニングセンター，自律学修，SALC オリエンテーション，SALC プロモーション，英語教育

In English language education in Japanese universities, Self-Access Learning Centers (SALCs) are increasingly common. For effective SALC use among learners, it is vital to develop awareness around how to use educational resources provided by SALCs. Such awareness is often formed through initial SALC orientations and various PR activities which may be provided through digital media, as a convenient and efficient means to promote SALC resource awareness and use. However, in the pandemic context, there have been marked changes in higher education practices. To address these challenges, our SALC has reconstructed its usage and support systems by bringing safer operations. Such changes have been required to support students in a “new-normal” learning environment. This paper reports on the particular challenges faced in a university context, including measures and initiatives implemented from semester one in 2020 to semester two in 2021. Among these initiatives include the modification of SALC orientation and PR activities. To review this implementation, the paper refers to two data sources: (1) a survey of students’ awareness of SALC resources, and (2) statistical data on SALC usage. The data showed improvement in SALC engagement following modified promotional initiatives. The paper concludes that dividing the information within SALC orientations and incorporating PR activities with communicative interactions can be effective to support effective SALC use.

Keywords: SALC, self-access learning, SALC orientations, SALC promotion, English language education

新型コロナウイルス感染症拡大の対策として、大学教育の在り方は大きく変化した。2020 年前期に授業を開始した多くの大学は遠隔授業の形式を選択し（文部科学省 2020），2021 年度後期の大学等における授業の実施方針等についての調査では、半分以上を対面授業で実施予定と 97.6 %の大学等が回答した（文部科学省 2021）。ポストコロナについての議論も始まり、教育再生実行会議（文部科学省 2021 年 6 月）では、ウェルビーイングの実現を主張し、個人の自律性、多様性を認めた社会の構築へと教育を推進させるべきだと提言された。

2010 年代以降、日本でも多くの大学で Self-Access Learning Center (SALC) が設立され、言語教育を通じた多様性への理解や学習者の自律育成に力が注がれている。SALC は学習者の自律育成の役割を担い（Gardner & Miller, 1999 ; Mynard, 2016 ; Yarwood et al., 2019），学生の個性や異なるニーズに合った学修をサポートしている。学習者は自己の学習に責任を持ち、目標達成のために適切な SALC リソースを認知し選択できるよう SALC はサポートを行うことが重要である。SALC の効率と効果を高めるため、カリキュラムと SALC の連携（Mynard & Stevenson, 2017）や教員と SALC ラーニングアドバイザー（LA）との協力（Horai & Wright, 2016）は、非常に意義があるだろう。SALC が効果的に利用されるために、学習者が SALC リソースの利用方法を理解することは重要である。学生は、オリエンテーションや様々なデジタル媒体での PR を通してこれらを認知することが多いだろう。当該 SALC でも、現在はデジタル媒体による PR 活動が中心となり、SALC の業務に従事するメンバーが作成した動画やスライドを教員がクラス内で紹介する、SNS 等で告知するといった手法へ変化してきている。これは利便性や効率においては非常に有効である。しかし、単に情報を伝えるだけではなく、学生が理解し、情報を他人事ではなく自分事と認知するにはどう伝えるべきか検討が必要だろう。オンライン学習が普及する中、実質的な SALC 存在意義として、対面での交流、学習者の情意的要因、学習者自律の育成のサポートの重要性を Mynard (2016) は主張し、学生への理解を深め、学生が学習意欲を高めるためには、SALC と学生の良い関係の構築は重要であると述べている（Mynard, 2014）。パンデミックによる不安定な状況下だからこそ、学生との信頼関係構築は、より大切であり、学生と接する機会を増やすことは、学生のサポートに意義があるだろう。2016 年の熊本震災の被災経験からも困難期こそ、対人

でのやり取りは重視されるべきだと考え、SALC オリエンテーションの改善及び PR 活動（SALC 促進）に取り組んだ。本稿では、コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら行った SALC 運営の状況や PR 活動及び SALC オリエンテーションの実施等、学期ごとの取り組みを報告する。また、2 種類のデータ (1) SALC リソースに関する学生の利用方法の認知度調査 (2) SALC 利用状況に関する統計データを用い、取り組みを振り返り、当該 SALC における成果及び考察を述べる。

崇城大学及び SALC について

崇城大学は 1 学年 800 名程度の規模で 5 学部 10 学科で構成される理系の総合大学である。2016 年度に大学教育再生加速プログラムに採択され、全学的にも学生の自律育成マインド醸成に注力している（崇城大学大学教育再生加速プログラム運営委員会, 2019）。2010 年、英語教育施設 Sojo International Learning Center（SILC）の設立時に SALC は併設されたが、6 年後に熊本震災が発生し、2018 年 4 月に SALC は再建された。SALC リソースのデジタル化も進み、PR 手法も変化し、紙媒体中心からデジタル情報による PR 活動が中心と変化した（木下 & 宝来, 2021）。

現在、SALC には、LA が 3 名、スタッフ 3 名、学生スタッフ 4 名の計 10 名で SALC 運営やカウンター業務を担っている。SALC のリソースは、貸し出し可能な書籍や館内利用の CD、DVD に加え、映画鑑賞ブース、リスニングエリア、多目的ルームなどの設備、学生と英語教員（外国人教員 17 名在籍）が交流するコミュニティスペースとしてカンバセーションラウンジ（CL）、予約制で個別指導が受けられるスキルセンター（SC）や LA による学習相談のサポートを提供している。これらの利用方法は、主に新学期の SALC オリエンテーションや学期中の PR を通し、学生に案内をしている。

2020 年前期は混乱の中、5 月に授業が開始し、1, 2 年生対象英語クラス（通常週 2 回対面授業）は 4 週間に渡り、全てオンライン授業を実施した。5 週目からは 1 クラスを 2 グループ（1 グループ 15 名以下）に分け、対面授業、オンデマンド授業を各 1 回ずつ（週 2 回）実施した。大学全体では登校日を限定し、対面授業を実施する科目の実施日が集約された。この形式は 2021 年度も継続された。本稿で用いる「学習」の定義は単純に学ぶことやその行動を主に指し、「学修」は学んだ知識を

身に着ける、また活用できるようになる状態で、「学習」を点に例えるなら、点が連なり一つの線になる状況を「学修」と考え表記する。

SALC リソースに関するプロモーションの課題

2019 年度末（2020 年 1 月末）に SALC リソースについて、学生の SALC リソースに関する利用方法の認知度を 6 段階のリッカート尺度を用いて調査した。調査は 1, 2 年生の英語クラス内で Survey Monkey を活用し実施した。質問項目は以下の 4 項目である。

1. 学習相談の利用方法を知っている
2. CL の利用方法を知っている
3. SC の利用方法を知っている
4. 教材や DVD 等の借り方を知っている

データは 1 年生 750 名（表 1）、2 年生 648 名（表 2）から回答が得られた。その結果、教材等の借り方以外の項目で両学年とも利用方法の理解に対し、4 割程度が否定的な回答であった。これらのリソース利用方法を十分認知していないことがわかり、SALC オリエンテーションや PR 活動の見直しが課題となった。

表 1

2019 年度 1 年生 SALC リソース利用方法の認知度調査 (N=750)

	非常に 賛成	賛成	少し 賛成	少し 反対	反対	非常に 反対
学習相談の利用方法を知っている	104	109	208	161	112	56
SC の利用方法を知っている	109	108	204	168	106	55
CL の利用方法を知っている	109	122	211	164	93	51
教材等の借り方を知っている	165	212	212	90	40	31

表 1

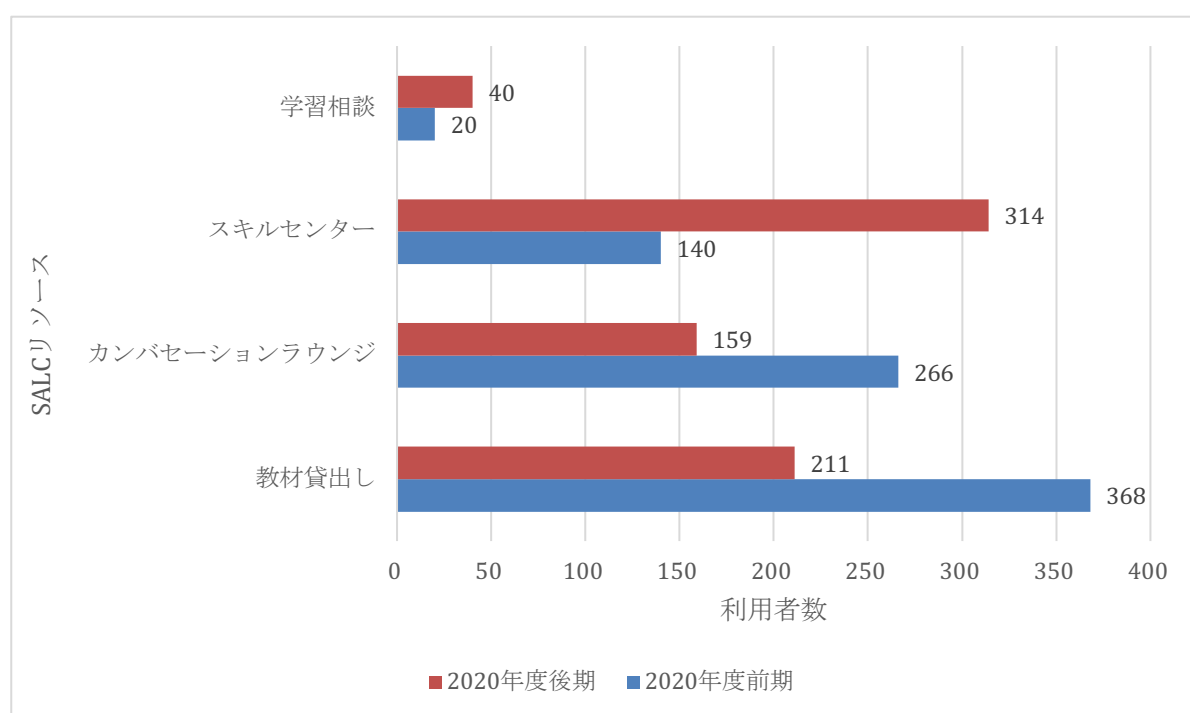
2019 年度 2 年生 SALC リソース利用方法の認知度調査 (N=648)

	非常に 賛成	賛成	少し 賛成	少し 反対	反対	非常に 反対
学習相談の利用方法を知っている	75	156	174	117	79	47
SC の利用方法を知っている	69	139	174	136	81	49
CL の利用方法を知っている	78	141	188	121	73	47
教材等の借り方を知っている	134	208	196	53	36	21

2020 年前期

SALC は 2020 年前期授業の開始と同時に開館したが、CL は Microsoft Teams で開設し、パスワードとアクセス用の QR コードを印刷したカードを学生に配布した。個別学習指導の SC オンラインへと移行し Teams のチャットを利用した。学習相談は学生の希望に応じて SC 同様 Teams または対面形式とした。貸し出しに関しては従来と同様としたが、大学内での学生の滞在時間を最小限にするよう大学の方針が出され、積極的な SALC の PR 活動は行わなかった。SALC 利用の変更に関しては英語クラスで教員からの案内や SNS 等で告知を行った。通常 4 月に実施する SALC オリエンテーションの時間も確保できなかった。

図 1
2020 年度 SALC リソース別利用者前期・後期比較

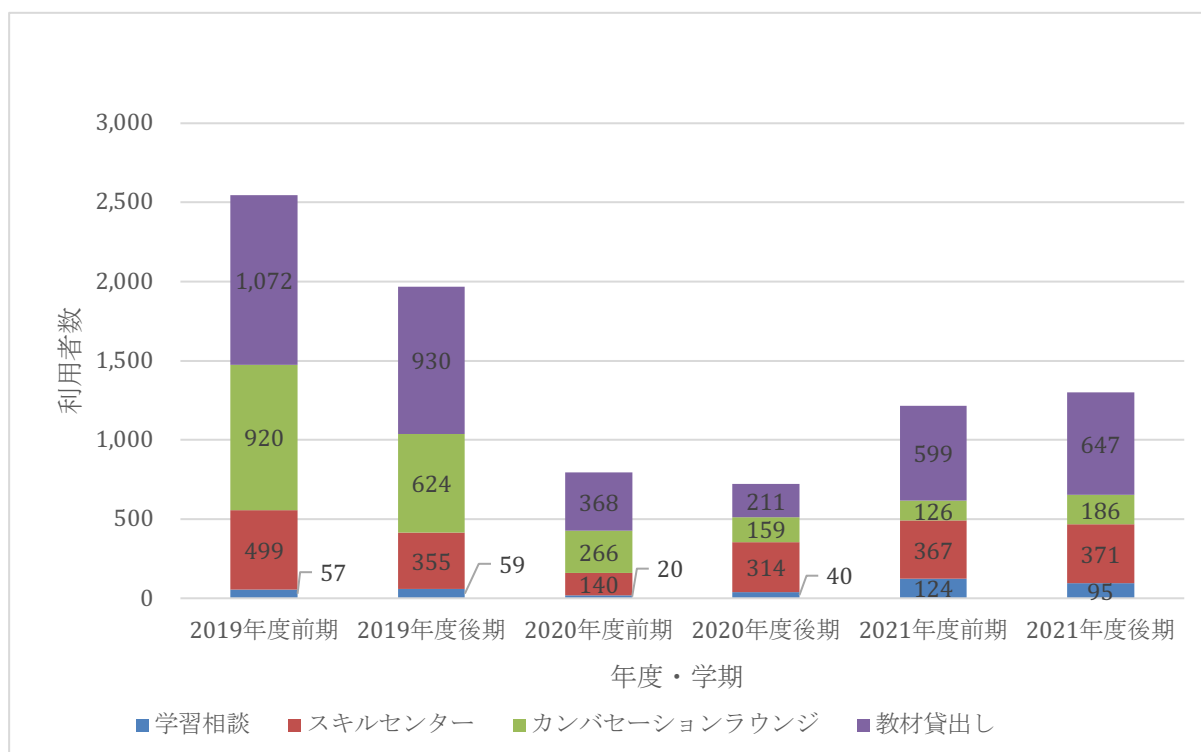


2020 年後期

2020 年後期は大学全体の対面授業も増え、ニューノーマルへ移行の兆しが見える中、SALC の利用制限も少し緩和された。CL はオンラインで継続したが、SC と学習相談は基本的に対面に戻り、学生の要望がある場合は、オンラインでの対応も行った。後期開始から 2 カ月後、学生へ目標設定を促す動画（1 分半程度）を Adobe

Spark Video で作成し，1，2 年生の英語クラス内で視聴してもらい，同時に全 120 クラスを LA または SALC スタッフが約 2 週に渡り訪問し，個別利用の学習相談や CL を説明しチラシを配布した。SALC リソース別の利用者数を同年前期と比較したところ，後期は前期比較で例年利用者が減少傾向にあるが（図 2），2020 年度の SC 利用者数は前期 140 名，後期 314 名で，学習相談は前期 20 名，後期 40 名と増加した。クラス訪問でチラシを配布し推奨したこれらのリソースに関しては，利用者が約 2 倍に増加した（図 1）。（延べ人数による利用者数で，オンラインでの利用者も含む）

図 1
SALC 利用者数学期別推移



2021 年前期

新学期スタート時の英語クラス（1，2 年）のオンデマンドクラス課題として，目標設定を促す動画と Microsoft Forms での課題を提供した（付録：Your Goal in Sojo）。これは SALC の直接的な PR ではないが，学生が自分の目標を設定することで，前向きな気持ちへ繋がることや英語学修に関するゴール考え，延いては SALC 利用へ繋がることを意図した。

新学期の SALC オリエンテーションでは、テーマを 5 つに分け、1) SALC について、2) 教材・施設利用、3) SC 利用、4) CL 利用、5) 学習相談について各 5 分程度の紹介動画を作成し、英語の授業時間内にこれらを学生に紹介した。1)では動画視聴後、SALC スタッフまたは LA が全クラスを訪問し、パンレットを配布した。2)の動画紹介の際は学生が SALC を訪れ、SALC ツアーを行ったが、学生スタッフもガイドを務めた。3)と 4)の紹介では実際に SC や CL を活用する先輩学生が作成した活用方法の紹介動画も提供した。2 年生は全てのミニオリエンテーション（5 回）を実施できたが、6 月のコロナウイルス感染拡大に伴い、1 年生クラスでは日程調整が困難となり、1)の実施のみとなった。

2021 年後期

前期に 1 年生クラスで実施できなかった分のオリエンテーションを実施した。1 年生への SALC ツアーを実施することもできた。SALC の CL も対面での実施となり、SALC 館内の様々なスペースで過ごす学生が増えていった。また、2020 年には開催できなかった英語プレゼンテーションコンテストも 12 月に対面で実施でき、例年の約 2 倍（18 名）の応募数となった。コンテストは予定を変更し 2 日に分けて全員に発表の場を設けた。発表後の参加者へのアンケートでは、対面であったが安心して参加できたこと、SALC を活用し発表準備が出来た等のポジティブな意見が聞かれた。

SALC 利用者数は、同年前期（利用者数計 1,216 名）との比較で、後期利用者の総数は 83 名増加し、前年 2020 年度後期（利用者数計 724 名）と比較では 79%の伸び率（利用者数計 1,299 名）となった（図 2）。

SALC リソース認知の変化

2019 年度末に実施した学生の SALC リソースに関する認知度調査を 2020 年度末、2021 年度末も同様に実施した。調査方法は上記した 2019 年度実施時と基本的に同様の手法だが、2021 年度は Microsoft Forms を活用し調査を行った。2 年間の学生の利用方法に関する認知の程度を年度別及び学年別の加重平均値で比較した。1 年生、2 年生共に全てのリソースの利用方法の認知度は前年度から改善がみられた（図 3、

図 4)。また、パンデミック前の 2019 年度と比較しても、1 年生は学習相談、SC、CL の 3 つの項目に関する利用方法について、2 年生は全ての項目で認知度の向上が見られた。また 1 年生より、2 年生が全ての項目において利用方法の認知度が高いことが明らかになった。

考察

SALC での学生の利用方法の認知を向上させるために SALC オリエンテーション及び PR 活動の取り組みによる改善を検討した。また、パンデミック状況下で SALC のサポート体制の再構築が余儀なくされ、安全性を確保しながら学生が安心して「ニューノーマル」の環境で学習に取り組めるように検討を行った。

2020 年後期以降に行った PR 活動や SALC オリエンテーションを通し、当該 SALC においてこれらの取り組みは有効であったと思われる。一連の PR 活動を行い、以下のことが予測される。

- 学生は推奨されたリソースをより実践する傾向にあるかもしれない。
- オリエンテーションの情報（内容量と時間）を分割することで、学生は理解しやすくなる。
- クラス訪問による PR 活動は SNS への情報告知より時間と労力を要するが、学生がより能動的に情報を処理し、認知向上に繋がる可能性がある。
- 学生との SALC メンバー接触する機会を設けることで、より良いサポート体制の構築に繋がる可能性がある。

結論

ポストコロナの時代において、学習者の自律育成を目指した学修をサポートする SALC の役割が今後、益々関心を集めるだろう。様々な情報が溢れる時代において、学生が自分に必要な情報として受け止められるような PR や初期オリエンテーションは重要で、効果的な SALC の利用にも繋がるだろう。本稿で述べた事例は、崇城大学のコンテキストにおいて効果が見られたが、様々な大学の規模や SALC 形態の中で多様な取り組み方があるだろう。それぞれの現場で効果的な手法を検討すること

が大事であり、学生それぞれの個性に合ったサポートしていくために、様々な取り組み方をバランスよく取り入れることで、SALC 向上へ繋がるのではないだろうか。

図 3

1 年生 SALC リソースの利用方法の認知度

(2019 年 N=750, 2020 年=644, 2021 年 N=642)

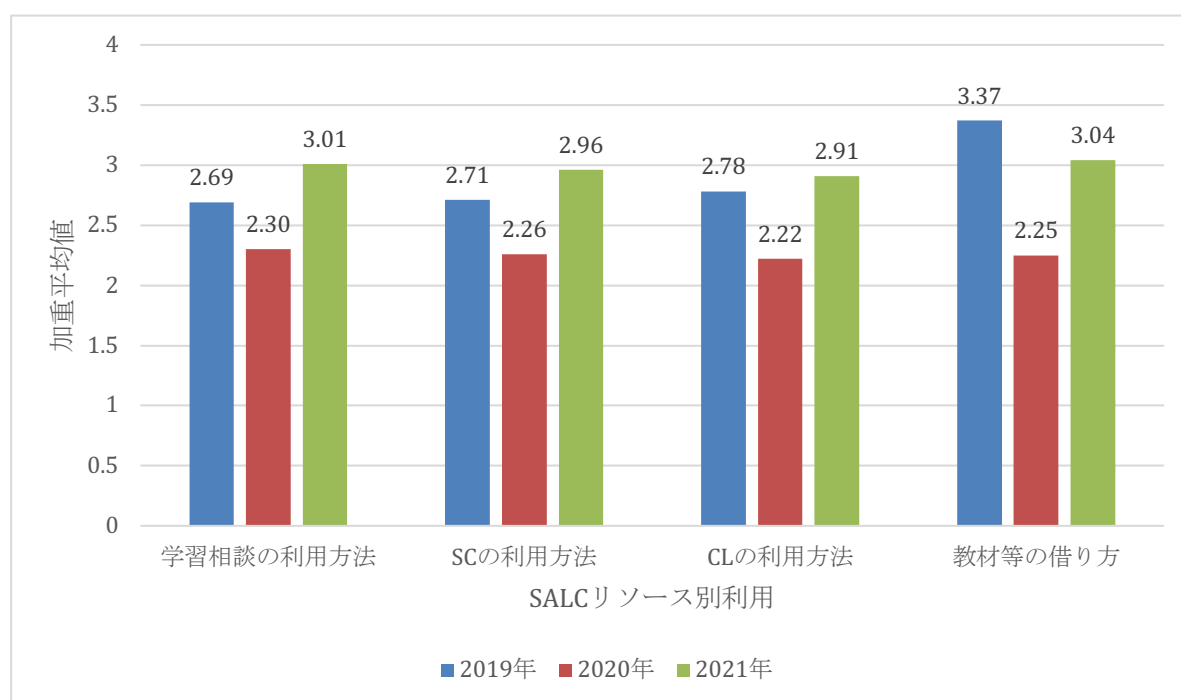
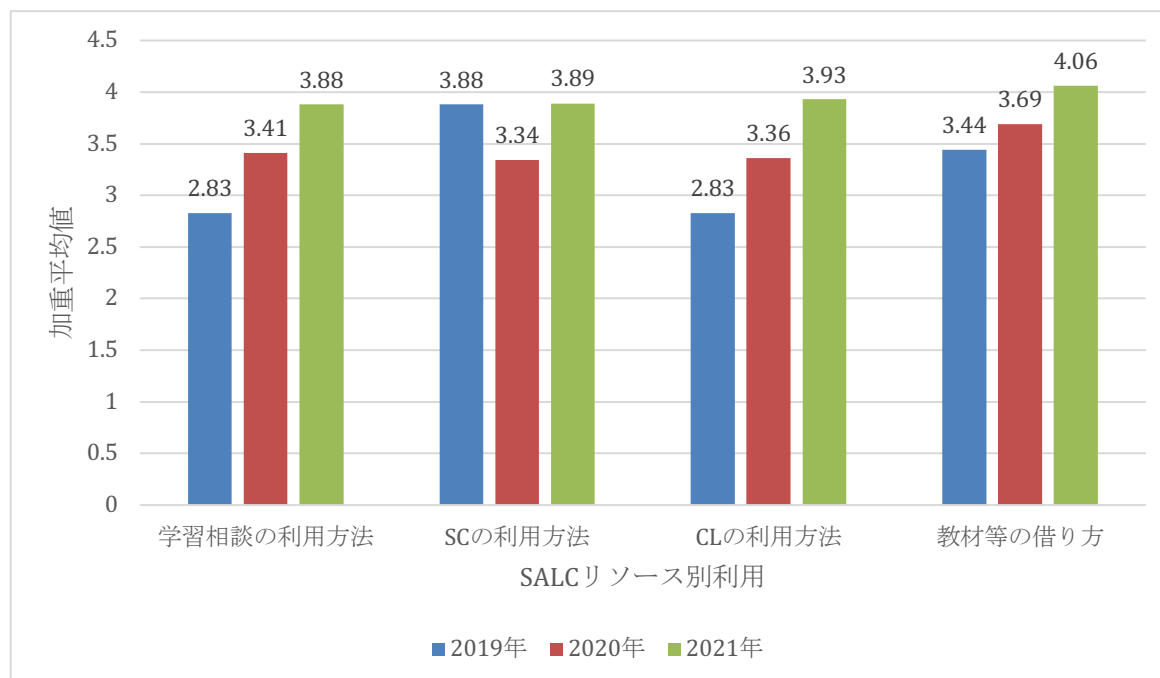


図 4
2 年生 SALC リソースの利用方法の認知度
(2019 年 N=648, 2020 年=654, 2021 年 N=610)



謝辞

SALC リソースに関する認知度調査にご協力頂いた崇城大学の学生の皆様に感謝いたします。

参考文献

- 崇城大学大学教育再生加速プログラム運営委員会. (2019). 大学教育再生加速プログラム令和元年度 取り組み報告書 2019. 崇城大学教育再生加速プログラム運営委員会. 参照先: <http://ap.ed.sojo-u.ac.jp/al/i/sojo-ap-report-2019.pdf>
- 宝来華代子, 木下陽子. (2019). 自律学修者育成へ向けてのSALCの取り組み 2010年設立からの軌跡. 崇城大学紀要, 44, 135-143.
- 文部科学省. (2020). 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況 (令和2年6月1日時点). 参照日: 2022年3月, 参照先: https://www.mext.go.jp/content/20200605-mxt_kouhou01-000004520_8.pdf
- 文部科学省. (2021). 令和3年度後期の大学等における授業の実施方針等に関する調査の結果について (令和3年11月19日). 参照日: 2022年3月, 参照先: https://www.mext.go.jp/content/20211118-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

- 文部科学省. (2021). 教育再生実行会議 第十二次提言 概要「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」. 参照日: 2022年3月, 参照先:
https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/6686/00395867/02_gaiyou_03_173.pdf
- Gardner, D. & Miller, L. (1999). *Establishing Self-Access From Theory to Practice*. Cambridge University Press.
- Horai, K., & Wright, E. (2016). Raising Awareness: Learning Advising as an In-Class Activity. *Studies in Self-Access Learning Journal*, 7., 197–208. 参照先 :
<https://doi.org/10.37237/070208>
- Mynard, J. (2014). Self-access and Motivation. *Learning Learning*, 21(2), 18–23. 参照先 :
https://www.academia.edu/9197236/Self_access_and_Motivation
- Mynard, J., & Stevenson, R. (2017). Promoting Learner Autonomy and Self-Directed Learning: The Evolution of a SALC Curriculum. *Studies in Self-Access Learning Journal*, 8(2), 169–182. 参照先 : <https://doi.org/10.37237/080209>
- Yarwood, A., Lorentzen, A., Wallingford, A., & Wongsarnpigoon, I. (2019). Exploring Basic Psychological Needs in a Language Learning Center. Part 2: The Autonomy-Supportive Nature and Limitations of a SALC. *Relay Journal*, 2, 236–250. 参照先 : <https://doi.org/10.37237/relay/020128>

付録

1. オンデマンド課題 2011 年前期活用動画 Be an owner of your learning (adobe.com)
<https://express.adobe.com/video/p0WTTQRaETrZk>
2. Your Goal in Sojo (Microsoft Forms オンデマンド課題 2011 年前期活用)


Your Goal in Sojo

1

崇城大学で達成したいと思う自分自身の英語のゴールを書いてください。（自由記述形式）
ゴール設定のポイントはSMARTゴール！「S・M・A・R・T」を考慮して書いてみましょう！

S-Specific 明確なゴールを！
M-Measurable 測定できる、進捗の確認できるゴールを！
A-Actionable 実行可能なゴールを！
R-Relevant 自分に適切なゴールを！
T-Time-related 期限がある、ゴールまで時間確保を考慮！ *

回答を入力してください

2

そのゴールを達成した時の自分の気持ちは？何かに例えるなら？ *

回答を入力してください

3

そのゴールについて今、どう思いますか？ *

☐ すでにゴールに向かってやっている
☐ 学習リソースを探してみようと思う
☐ やってみたいが自信がない
☐ 難しそうだし、達成できそうにない
☐ 何からすればいいかわからない
☐ 頑張ればゴール達成できると思う
☐ その他